

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500054		
法人名	社会福祉法人 善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園		
所在地	沖縄県 宜野湾市 伊佐 2丁目1番6号 グランドステージMG道下1階		
自己評価作成日	令和2年 12月20日	評価結果市町村受理日	令和3年 5月 30日

※事業所の基本

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4790500054-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4790500054-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和3年 3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○利用者様が生き生きとした生活が送れるように職員が目届く範囲に居て目配り、気配りをしている。</p> <p>○利用者様、皆さんに声掛けを行い、毎朝のラジオ体操・レク体操・早口言葉・脳トレーニングを行っている。</p> <p>○地域の保育園と定期的に交流会を行っており、その度利用者様から笑顔が見られ楽しめます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は2007年10月に開設し、14年目を迎える事業所である。法人は、市内外に特別養護老人ホームや通所介護、訪問介護、小規模多機能型居宅介護等を展開しており、運営や医療面で連携が図りやすい環境にある。利用者の年齢や介護度がアップし、車イス利用者も増えていく中、「家庭的な雰囲気の中で、笑顔があふれるよう、利用者の個性や能力を尊重した支援を理念に掲げ、利用者の笑顔を引き出せるよう実践に励んでいる。食事は3食、職員が作り、利用者が好む献立を作成して食材の買い出しを行い、ソーメン汁やフーチャンプルー等の家庭的な料理、ちらし寿司等の特別食を提供している。フードプロセッサーを購入して刻み食やミキサー食を更に工夫し、利用者が喜ぶハンバーガーを出すこともある。家族とのコミュニケーションを大事にして信頼関係の構築に努め、要望等も支援に反映している。コロナ禍で面会が制限される中、電話やグループホーム便りで定期的に利用者の近況を知らせ、「いい表情をしているね」との家族の声もあり、安心や信頼感に繋げている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をトイレ・キッチン・玄関等の常に職員が目に入る場所へ掲示しており、常に意識しながら支援を行っている。	利用者が笑顔で安心して暮らし続けられるように、職員は家庭的な雰囲気づくりに努めている。介助しすぎて利用者のできる力を削ぐことがないよう意識し、“何でも一番”という利用者やマイクを持って歌うのが好きな利用者等、個々の個性を尊重するとともに能力を活かせるよう支援している。家族との情報交換や上階の保育園園児との交流等を行い、利用者の笑顔や家族の信頼感に繋がるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と定期的に交流会を持ち、子供達と接する機会を設けている。敬老会に地域の方に琉舞やエイサーでの協力をお願いしている。今年度はコロナの為交流はない。	運営推進会議に自治会長や民生委員の3名が地域代表として参加し、情報交換を行っている。自治会に加入し、年2回の清掃に職員が参加している。例年、区の敬老会の招待を受け、利用者が参加し、事業所の敬老会には地域のサークル活動の方が琉球舞踊等の余興を披露する等交流している。複数の青年会も来訪し、居間でエイサーの演舞を披露する等していたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、交流や受け入れを中止し、毎年行っている実習生の受け入れも中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学・相談に来られた方にグループホームや認知症についての説明等を行い理解を深めてもらえるよう努めている。小学校の福祉教育に参加し、車椅子体験等に講師として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、2ヶ月に1度運営新会議を開催し、現状報告や活動報告、今後の予定等を報告している。会議中の意見等は職員間ミーティング等で議題に上げ、サービスの向上に活かしている。今年度は委員会メンバーと相談し中止している。	コロナ禍以前は2か月に1回、定期的に運営推進会議を開催し、令和2年3月には書面開催として、運営推進会議の委員に資料を送っているが、その後は、開催していない。会議では、インフルエンザの予防接種や夫婦の入居等について意見交換が行われている。外部評価結果や議事録等は玄関内で公表している。	運営推進会議を定期的で開催し、事業所の実践状況を報告して委員からの意見等を求め、運営の透明性とサービスの質の向上を図る取り組みが望まれる。コロナ禍における開催についても工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に担当の市職員に参加して頂いており、その都度、相談やアドバイスを貰っている。市のグループホーム連絡会に参加し情報交換やアドバイスを貰っている。	運営推進会議の委員として、担当課職員と地域包括支援センター職員が参加している。研修等の情報提供は主にFAXで受けている。認定調査結果に関する家族からの問い合わせについて担当課へ相談をし、再度の調査を実施してもらい、区分変更の見直しとなったことがある。市や社協と協働して、小学校での「介護体験教室」を年2回程度実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一度身体拘束適正化委員会を開催している。定期的に法人内研修に参加し、その内容は他の職員にも周知している。	身体的拘束等の適正化の取り組みについては、指針を整備し、職員間で協議した後、2か月に1回「身体拘束適正化委員会」を実施している。委員会の議事録は整備されているが、議事録の全職員への周知が十分には確認できなかった。身体拘束排除マニュアルがあり、身体拘束をしないケアについて職員の周知を図り、ミーティング等でセンサーマットについて議論をしている。身体的拘束等の適正化のための研修の定期的な実施は確認できなかった。	定期的(年2回以上)な研修を計画して実施することが望まれる。「身体拘束適正化委員会」議事録の職員への周知方法についても工夫を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、全職員で身体拘束適正化の為の指針の読み合わせ、変更箇所等の確認を行っている。マニュアルを作成し、新しい職員にも研修を行っている。	虐待の防止への取り組みとして、虐待の種類や不適切なケア等について話し合い、利用者に対して語調が強くなるよう互いに注意し合うようにしている。ニュース等からも虐待の事例を取り上げ、職員間で確認し、虐待の防止に努めている。マニュアルは作成途中で、研修は未実施となっている。	虐待防止マニュアルを整備するとともに、虐待防止の研修を実施することが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身内の少ない利用者様には説明を行い権利擁護の説明をし、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、利用者様家族に対し、十分に説明を行い、疑問点等があればその都度説明を行い理解して貰えるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。推進会議に家族代表にも参加して頂き意見を求めている。	苦手な食べ物がある利用者の声や「何でも一番がいい」という利用者の要望を職員間で共有し、献立の内容や支援の順番を工夫し、対応している。月に1回は家族等に電話で、利用者の様子や活動、健康面について報告するとともに、毎月発行のグループホーム便りを家族に郵送し、利用者の近況を知らせている。コロナ禍の面会制限については家族に理解と協力を求めている。車イスの利用者家族から、受診時の送迎依頼や訪問診療への変更についての相談があり、対応している。家族の希望で、夫婦入居となった利用者があり、家族から喜ばれている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全職員のミーティングを行い、利用者様の個別の状態等の意見や行動等を話し合っている。	職員の意見や要望について、管理者は業務中をはじめいつでも聞くように心がけており、ケアについての提案やシフトについての要望等を受け、対応している。利用者の状態に照らした薬の調整の提案があり、医師への相談に繋げている。職員の提案で、電気ポットやガスコンロを買い換え、刻み食についても話し合っ てフードプロセッサーを購入し、食事の支援に活かしている。職員の意見を尊重し、夜勤については準夜と深夜に分けたシフトを継続している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人と連携し職員体制(パートの導入)改善を行い職員の負担の軽減に努めている。毎月休みの希望を聞きシフトに取り入れている。必要な物があれば職員間で話し合い、購入している。	法人の就業規則が整備され、休暇取得や研修への参加、資格取得への助成など働く環境づくりがなされている。就業規則は職員がいつでも閲覧できるように備えている。休暇の希望や職員の体調に配慮し、互いにカバーし合えるシフト調整を行っている。年2回の健康診断、年1回のストレスチェック、インフルエンザの予防接種も実施している。職員用の休憩場所がなく、職員は十分には休憩が取れていない。	職員の働く意欲ややりがいを支え、心身の体調管理を図る上でも、休憩時間に十分休めるような休憩場所の確保が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人研修に参加し、職員個々がスキルアップの機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換、意見交換を行っている。他事業所の運営推進会議に参加したり、自事業所の推進会議に参加を依頼している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者の声に耳を傾け、コミュニケーションを取りながら信頼関係を構築し不安を無くすよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族や介護保険サービス関係者と会話を通じ情報を共有し信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中から本人や家族の要望等を伺いながら必要な支援を決めている。職員間でも話し合いながら必要な物があれば購入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションの中から本人が出来る事、好きな事を見つけ一緒にいき信頼関係構築に努めている。1人1人への声掛けを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に会話を通じ、要望等を聴きながら意見交換し問題点を共有しながら家族、職員が一緒に本人を支えるよう努めている。病院への定期受診や紙パンツ等の買い物家族で対応してもらい訪問の機会を作っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に本人が住んでいた地域を回ったり、地域の行事に参加している。施設での行事には地域の方に協力をお願いしている。お盆や正月には自宅に帰省出来るようポータブルトイレの貸し出しや送迎を行っている。	馴染みの人や場については、利用者や家族等から聞いて把握に努めている。昔の居住地への遠出のドライブを実施して商店街を見る等支援し、年中行事に合わせた自宅への外出も支援している。コロナ禍以前は友人知人の面会を歓迎していたが、現在は面会等を制限している。かつて鮮魚店を営み、魚が好きな利用者の居室には魚のポスターを貼り、いつでも魚が眺められるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人に目を配り、席替え等も行いながら利用者同士が対立しないように努めている。時には利用者同士の会話が弾むよう職員が間に入りながら話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後家族から連絡があった場合も相談等に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族面会者と情報収集を行い、様子観察して好きな事や嫌いなことを見つけている。	利用者の思いや意向については、できるだけ本人の発する言葉や表情から汲み取るようにしている。手を動かすことが好きな利用者には、タオルたたみの役割を与え、歌が好きな利用者には、レクで歌う機会を増やしている。新聞や本を読むことが好きな利用者、お風呂のお湯の温度の好みも把握して各々対応している。食事の嗜好にも配慮し、本人が嫌いな物は出さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族面会者と情報収集を行い、これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の観察を行い、申し送り簿等で職員の連携をとり、本人の把握に努めている。ミーティングで利用者の状況報告をし意見交換を行い現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時に本人家族職員と話し合い、介護計画に反映するようにしている。	家族等の意見や要望は主に面会時に聞き、面会時に担当者会議を設定することもある。会議では、利用者や家族、担当職員等で話し合い、「立ち上がりの訓練を入れてほしい」や「漢字の書き取りをさせてほしい」等の意向を反映して計画作成担当者が介護計画を作成している。長期目標は1年、短期目標は半年とし、3か月に1回モニタリングを実施し、定期や随時の見直しも行っている。介護計画については、見直しの年月日が記載されていない計画が見受けられた。見直しの日付の記載やファイリングも含めて、確認検討を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り簿や、利用者の日誌に記入して職員で情報を共有して問題点を確認して介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況を見ながら、受診の対応をする。家族と連携をとり、面会や本人の欲しいものを伝えて買い物をお願いする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の状況に応じて地域の祭りの参加等、楽しい暮らしができるようにする。地域の人と交流してやりがいを見つける。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を聞きながら希望の病院で、受診の支援を行ない、健康で過ごせるようにする。本人の状況を主治医へ説明・文書の交付を行い、適切な医療・連携ができるようにしている。	利用者は、かかりつけ医を継続受診している。利用者全員が週1回の訪問看護を利用し、訪問診療は5人、訪問歯科は3人が利用している。他科受診で家族対応が難しい場合には職員が同行支援している。受診結果は、医師からは書面で、家族からは口頭で報告を受けている。職員は業務日誌や申し送りで情報を共有している。利用者は年1回の特設検診等を受診している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護婦が来た時に利用者の状態を説明して適切なアドバイスをもらい、本人の状態を悪化させないようにしている。緊急時には連絡をとり先生からも、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にアセスメントや口頭で情報提供を行い、適切な治療が早く出きるようにしている。退院時のカンファへの参加をして退院後のケアに生かしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながら、重度化や終末期に向けての家族と話し合いを行っている。特養への入居の相談にのり、施設と連携に努めている。	契約時に、「グループホームにおける重度化対応に関する指針」に基づいて、利用者や家族に事業所でできることについて説明している。看取りを希望する家族もあるが、事業所では看取りは実施しない方針であることを再度説明し、話し合いを重ねて、他機関につなぐ等の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の緊急時の研修に参加して実践力を身に付けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、地域の方の参加を依頼して協力体制を築いている。	昼夜想定避難訓練を年2回行っている。消防設備の設備点検を依頼している業者の立ち合いのもと実施した夜間想定避難訓練では、「出火箇所の扉を閉めて延焼防止が出来ていた」や、「初期消火後、排煙装置を使用出来ていなかった」等の評価と反省点があった。備蓄は、45ℓの水、2ℓペットボトル42本、レトルトのご飯20食、米15kg、玄米2kg、インスタントラーメン20食など3日分を用意し、発電機2台、カセットコンロ等を用意している。	



自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、プライバシーを確保するように声掛け支援等に気をつける。利用者の声に耳を傾ける。	利用者や家族と「利用者の個人情報の取り扱いについての同意書」を交わし、個人情報保護方針、及び利用目的は事業所内に掲示している。入浴の際、脱衣後はバスタオルで身体を被い移動している。手術の傷跡を気にしている利用者へは、関連する病気の話はしないこと等を職員間で周知し、プライバシーを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたい事を聞き取りしながら本人が出きる事を見極め危険がない様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の手が足りない事もあり、思うように出来ない事もあるが、本人の希望を優先して支援するように職員一同心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のブラシをしたり、出かける時におしゃれをするようにしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に声掛けしながら、献立や食材の説明をして、本人の食べる意欲を促している。利用者の重度化で準備等は出来ない事もあるが、食器拭きなど声掛けしてできることはしてもらっている。嫌いな物は出さないようにする。	食事は3食、事業所で調理し提供している。利用者は食器拭きなどを担っている。利用者の好きなフーチャンプルー等の場合には、個別に献立を伝えることで食欲を促している。おやつ会を2か月に1回行い、味覚を刺激している。コロナ禍にあっても、利用者と職員は感染予防対策を取りつつ、一緒に食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ等本人が食べやすいようにしている。水分を嫌がる事もあり、出来るだけ回数を多めにして飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に声掛けして出来るだけ本人にしてもらうが、出来ないところは職員の支援により、清潔を保つようにする。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの利用者の様子観察を行い、トイレ誘導をして失禁を減らしたり、日中はトレーニングパンツから布パンツにする等職員で話し合いながら自立できるように支援している。	排泄支援については、排泄チェック表を基に、各利用者の排泄リズムを把握し、毎食前後の声かけ、利用者のしぐさ、表情を見逃さずに日中はトイレでの排泄支援をしている。夜間にはポータブルトイレを使用する利用者もいる。便秘解消のためにラジオ体操や踊りを取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけたくさんの食材を使い、食物繊維をとってもらおうようにしている。ラジオ体操や踊りを一緒にを行い体を動かす機会を作っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、その日より体調や希望を聞き、変更する事もある。	入浴は、同性介助を基本に週3回のシャワー浴を支援している。「熱い湯」が好きな利用者には温度を調節し、琉球民謡が好きな利用者の入浴時には、携帯電話で音楽を流しながら支援している。入浴を嫌がる利用者へは、「着替えましょう」と声をかけ、足浴から入浴へつなげる等工夫をしている。好みのシャンプー等を使用し、入浴を楽しんでいる利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子観察を行い、疲れている時や体調不良時等居室で眠るよう声掛けしている。声掛けして安心できるようにする。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を薬箱に貼り付け内容を確認できるようにしている。薬の変更等申し送り簿に記入して職員で把握できるようにしている。本人の状態を観ながら主治医へ薬の相談をしている。	服薬管理マニュアルについて見直し、薬の管理、与薬、誤薬・与薬過誤時の対応、薬の受領時の対応方法の確認や役割を変更する等を加えて作成している。与薬後、利用者が飲み込むまで離れずに見守りを行っている。現在、誤薬は発生していない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることや好きな事を把握し、能力に応じてできることを支援する。本人に感謝の気持ちを伝え、いい所をたくさん褒めるようにする。年に2回利用者、職員全員で外食し、気分転換を図っている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の皆さんで出かける機会を作り、戸外に出る機会を作っている。家族の支援をえながら外出の機会を作るようしている。買い物と一緒に行き本人に材料を選んでもらい、やる気を出させる。コロナの為今年度は外出していない。	移動に車いすが必要な利用者が7人おり、天気のいい日には2、3人がベランダで日光浴をすることで気分転換を図っている。これまでは、利用者全員で初詣とドライブを行っていたが、コロナ禍で外出支援は控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は所持してませんが、所持している方は担当が本人の買いたいものを相談しながら買い物依頼をするようにしている。一緒に買い物に行き本人の好きな物を購入する。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年 5月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話のやりとりや家族と連絡できるように支援する。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	対面式のキッチンから食堂兼居間が見渡せ、利用者の様子を見守ることができる。居間の壁には、ペーパークラフトの桜の花やひな人形などが飾られ、季節が感じられる。上階の保育園園児から贈られた子どもたちの写真入りの「元気でいてね」メッセージボードが飾られている。洗剤や漂白剤、カビ取り剤などの収納ラックは、利用者の目に付かないよう布でカバーし、安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集う場所と他に話をしたりする空間を作っている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた物や思い出の品を持ち込んでもらい、落ち着いて過せるようにしている。	居室には、ベッド、エアコン、クローゼット、防火カーテン、ナースコールなどを事業所が備えている。希望する利用者には、加湿器を提供している。利用者は、寝具類やテレビ、クッション、ぬいぐるみ、家族写真などを持ち込んでいる。鮮魚店を営んでいた利用者の部屋には、家族が準備した多種類の魚のポスターを壁に貼り、馴染みのあるものに囲まれた部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や手すりを利用して本人が安全にできるようにしている。車椅子もできるだけ自走するように声掛けする。		